

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 10 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503957		
法人名	株式会社 ホンダニイマルヨン		
事業所名	グループホーム 木之庄		
所在地	広島県福山市木之庄町3-3-17 (電話) 084-923-7163		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503957-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成29年10月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者1人1人に寄り添った介護・看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム木之庄は利用者にとって自宅であり、地域の中で共に暮らす生活者として日々過ごす事を大切にしている。事業所理念「心身ともに健康で思いやりのある暖かいグループホーム」を事業所内に掲示し、利用者お一人おひとりを大切にし、利用者のしたい事や好きな事を見つけて、楽しみ事や活躍出来る場面作りをしており、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように、寄り添った支援に取り組まれている。又、要望を言葉で訴えられない利用者の気持ちを理解する為に、辛抱強く寄り添い、職員全員で協力して困難な利用者を支援している。食事には特に力を入れていて、介護職員自ら食事を作っている為、利用者の好みの味付けや咀嚼機能に合わせた形態にしている。又、その時の体調に合わせて調理方法も変えている。見た目はもちろん、温かい物は温かく、冷たい物は冷たい内に、一番美味しく味わえる状態での提供を心掛けています。季節の食材を取り入れたメニューを考え、手作りの食事を提供している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	掲示板に明示し、日頃よりミーティング中に話し合っています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念「心身ともに健康で思いやりのある暖かいグループホーム」を作り、事業所内に掲示し、管理者と職員は、理念を共有してケアの実践につなげている。ミーティング時に理念について話し合い実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者が重度化され外出はなかなか難しい面もありますが、状況を見ながら行ける場所には出かけるよう心がけています。	町内会に加入しており、地域とのかかわりは深いが利用者の重度化が進み地域の行事に参加する事が難しくなっている。しかしながら地域の子供会の神輿が施設前まで来てくれたり、民生委員の方の歌や紙芝居・運動ボランティア等で触れ合っている。近所の方が花を持って来られたり、手伝いが有ったりと地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れを通じてグループホームや認知症の人の理解や支援の方法等を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加を呼びかけ日程調整をしながら運営推進会議を行い、当施設の現況をお伝えし、意見交換をしています。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、包括支援センター職員・民生委員・地域代表・家族代表・職員・管理者が参加し、利用者やサービスの状況、行事、評価への取組みなどを報告し、意見交換し会議で検討しサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	お話しする機会があればその都度当施設の現状を伝えていきます。また困った時、相談したい時等市役所介護課へ行っています。	市役所生活保険課と日頃から事業所の実情やサービスの取り組みを伝えたり、相談したり助言を得たりしながら協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例の相談や情報交換を行う等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は無いグループホームです。玄関や居室は施錠せず開放されたグループホームです。	研修会や勉強会を通して職員一人一人が身体拘束についての知識、理解を深め玄関の施錠を含めて、日常的に身体拘束のないケアを実践している。外出したい利用者には職員と一緒に出かけるなど、寄り添いながら支援をしている。やむを得ず拘束が発生する場合は、家族の了解のもと書類を作成し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	いじめのないグループホームを目指しています。虐待は今のところありません。日頃からアザ、傷等注意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前入居されていた方が利用されていましたが、今後必要な人には活用できるよう支援していきたいと思えます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居されるときに説明しています。またその都度説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人または本人に代わり家族から要望が出ればその都度可能な限り対応しています。	契約時に相談や苦情の受付体制を説明している。玄関に意見箱を設置している。電話や面会時に利用者の様子を伝え、家族から意見や要望を聞いている他、運営推進会議時に家族の意見を聞いてそれらを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	よりよい施設にしていけるためにその都度話し合っています。	毎朝引継ぎのミーティング時や日常の業務の中で個々と話し合い、意見や提案を聞いている。業務の見直しやレクリエーションの見直しについて意見交換し反映に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	良いところは褒め、職員同士刺激を与え合いながらより良い介護サービスが出来るように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と思われる研修にはできるだけ参加できるよう計画し調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流会には出来るだけ参加し情報交換等を通じてサービスの質向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人からの訴えをよく聞き安心して生活が送られるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時、電話等で家族の話をよく聴くようにし、何が不安で困っているのか受け止めるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る事と出来ない事を見極め、他のサービスが必要であれば対応するよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る作業は職員と一緒にしてもらい時には入居者から知恵を借りながらやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族にも出来る部分は協力していただき、皆で本人を支えていけるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の住んでいた家の近所の方も面会に来られる事も有り、自由に来て頂けるよう声をかけています。	友人や知人、近所の人との面会がある他、家族の協力を得て外出・外食・カラオケ等に出かけて行っており、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良く平穩に過ごせるように声をかけたとして入居者同士励ましあえる関係を作れるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	問い合わせが入ればその都度対応し、家族からは近況を伺っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思が伝えられる方からは話の中から希望意向をつかみ、意思伝達が困難な方は家族からの話を元に検討しています。	日々の関わりの中での利用者の言動等から、お一人おひとりの願いや想いを大切にし、利用者が「コーヒーやヤクルトが飲みたい、パンが食べたい」等、日々の関わりの中でつぶやいた言葉を書き留めて、職員同士が話し合い、その人の暮らし方の希望に添えるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、これまでのサービス利用先から生活歴、経緯等を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状態に合った過ごし方をしてもらい残存機能を活かした介護をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向、提携医療機関からの助言を元に、本人にとってよりよい介護計画を作成しています。	担当者を中心にカンファレンスで話し合い、医師・看護師の意見を参考にし、利用者や家族の意向を聞き、状態変化がなくても6ヶ月毎にモニタリングを行い見直し、ケアプラン会議で検討し反映させている。また、日々の様子を家族に報告し、家族の想いを反映させ利用者にとってより良い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録を日々記入し、職員全体で情報を共有し、家族や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る事はできるだけ入居者の希望に応じられるよう家族とも相談しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、ボランティア、消防(消化訓練)、教育機関(実習生の受け入れ)と協力しながら支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の承諾を得て提携先医療機関で定期的にまたはその都度往診をお願いしています。	協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月2回定期的な往診があり、緊急時の往診や受診の支援をしている。週1回看護師が来訪し、健康観察を行っている。利用者の状態を伝え、適切な指示を受けている。必要に応じて専門医の受診を家族の協力も得て支援し、必要に応じて主治医と家族、施設職員と話し合いの場を持ち納得の上で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診提携先病院の看護師さんに個々の状態を伝えていきます。またわからない事、心配な事は相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前入院していた病院がある方はその病院へ依頼し、難しい方は提携病院と話し合い状態に応じた入院先を紹介してもらいます。入居後は綿密に情報交換をします。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携病院と綿密に連絡を取り、本人の状態を共有し、救急往診も依頼出来る体制を整えています。	契約時に家族に看取りを含めた「重度化対応の指針」について説明している。実際に重度化した場合や終末期については、早い段階から本人、家族、看護師、かかりつけ医と話し合い、希望に添うよう事業所で出来る事を説明し、病院や他施設への移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。今年度2人の看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ターミナルケアを取り入れているため、その時、その場で常に容態の急変や初期対応に気をつけて介護に活かしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っています。また災害時近所の方が在宅であれば、協力して頂けるようお願いしています。	防災訓練を年2回実施し、内1回は消防署の協力を得て、昼夜間を想定した消火、通報、避難訓練を職員と行っている。2階からダミーの人形で搬出の訓練を実施し、運営推進会議で報告し、検討している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの違いを尊重し、さりげない介護ができるよう気をつけています。	内部研修で接遇について学び、職員は理解して、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる所は管理者が指導し、職員間で話し合っている。個人情報の取り扱いに配慮し、守秘義務の遵守に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりに合わせた説明を行い、本人の希望に沿う支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活内で食事等大体の時間は決めてありますが、個々の状態に合わせ臨機応変に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前美容院を利用していた方には近所の美容院まで付き添い支援していましたが、重度化して、行くことが出来なくなったので従業員が年2回ボランティアで髪を切っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節、旬の食材を取り入れ野菜の仕分け、スジ取り等出来るところを協力して頂いています。	利用者の希望をとり入れた献立で、職員がメニューを考え旬の食材を使って三食とも事業所で調理している。利者は、重度化しており食事を居室で介助しながら行っており職員は別に同じ物を食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分または繊維の多い野菜、色々な野菜の組み合わせ等栄養バランスには気をつけています。水分も1日1500CCを目安にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨き、うがい等々に応じて実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し声かけ、誘導していません。また、重度化した方はおむつ交換で対応していません。	排泄チェック表を活用して、お一人おひとりの排泄パターンを把握し、声かけやさりげない誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため食事内容を工夫したり、運動、腹部を温める等しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	出来るだけ本人の希望に合わせて心掛けています。	入浴は週2回が基本ですが、お一人おひとりの希望に合わせて入浴を楽しむ事が出来るように支援している。入浴をしたくない利用者には職員を交替したり、声かけの工夫等、個々に応じた入浴の支援をしている。足浴・清拭・シャワー浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を大切にし、就寝時間は決めていません。また気持ちよく眠れるように寝具の整備も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬内容をケース記録に添付しいつでも見られるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活で洗濯たため、野菜の仕分け等出来るところは協力してもらっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の状態を見ながら、出来る限り対応しています。また家族へ本人の希望を伝え出来るだけ実現するように協力してもらっています。	お一人おひとりの利用者のその日の体調や希望に合わせて、日常的に散歩に出掛けたり、誕生日等には家族の協力を得て外出している。家族とカラオケに出かける利用者もいる。家族の協力で外出・外食を楽しんでいる。	利用者の重度化が進んでおり外出の機会を設ける事が出来にくくなっていますが、お一人おひとりの体調と状態を見ながら、近隣の散歩等出来る所から増やされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が出来ない人が多い為、施設側で預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	用事がある時等電話を利用してもらっています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具を揃え、季節の花を飾るなど明るい雰囲気になっています。	玄関やリビングに季節の花を飾り、壁面には利用者と職員で一緒に作った作品が飾っており、キッチンからは調理の音や匂いがしている等、季節感や生活感を採り入れている。テレビ・椅子・テーブルを配置し、居場所の工夫をして、居心地良く過ごせるように支援している。温度、湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれに個室と共有空間には量の前を設け自由に過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの寝具や生活用品を持ってきていただいています。	居室には筆筒・テレビ・ラジオ・衣装箱・寝具等使い慣れた物を持ち込んでいる。思い出の家族写真、カレンダー等飾って、利用者が以前と変わらず安心して過ごせるよう、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。リハビリ道具を持参している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入り口の扉に「便所」「エレベーター」等表記して迷わないように工夫しています。またトイレや廊下には手すりを設置しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 木之庄

作成日 平成 29 年10 月20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	今までは、入居者が重度化され外出はなかなか難しい状況でした。これからの入居者に合わせていこうと思います。	散歩や買い物等、職員と地域へ出かける機会を作る。	個々の状態や状況に合わせて、行ける機会をできるだけ作っていきます。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。